

三味線ライブ 酒造り唄と地酒の夕べ

三味線の調べにのせて、酒造り文化のリズムと歴史を日本酒とともに味わうひととき

工藤流津軽三味線



2024年 7月13日 日

開場17:15 開演18:00~19:30

酒蔵ギャラリー六斎 (春鶯囀)

(株)萬屋酒蔵店 山梨県南巨摩郡富士川町青柳町1202-1
TEL 0556-22-6931/ FAX 0556-22-6934
E-mail inforokusai@gmail.com

定員 2,500円
40名 (日本酒試飲2種類またはソフトドリンク1杯 & おつまみ付き)
(先着順)

申込方法 酒蔵ギャラリー六斎まで、
電話・FAX・メールにて申込

お酒の試飲を希望される方は、お車の運転はご遠慮ください

出演

工藤流津軽三味線菊詩会 会主

工藤 菊詩

工藤流津軽三味線青城会 会主

工藤 菊詩城

日本民謡 峰謡会 会主

桜井 峰謡

他

主催:酒蔵ギャラリー六斎 後援:富士川町

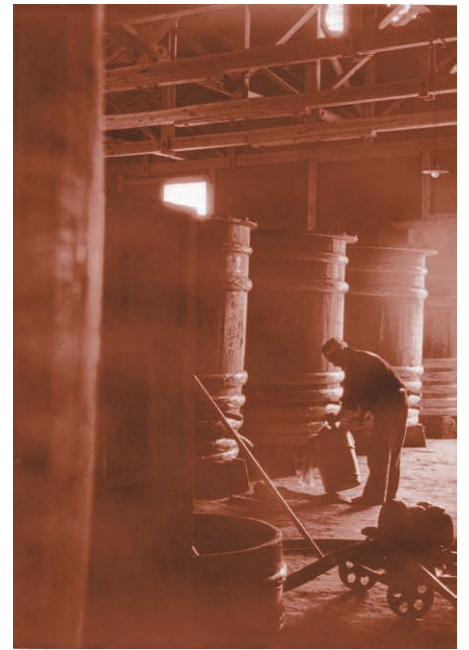
三味線ライブ
酒造り唄と
地酒の夕べ

演目

酒造り唄を中心に、
お米とお酒にまつわる民謡

「酒造り唄」とは

その昔、全国各地の酒造りの現場では「酒造り唄」という唄が歌われていました。時計など無い時代、唄うことで作業時間を計ったり蔵人の呼吸を合わせたり、疲れた体を奮い立たせたりと、酒造りの工程に沿ってそれぞれの唄がありました。作業の正確性や効率化、眠気覚ましや危険防止、そして仲間意識の向上といった効用があったそうです。その歌詞は、労働の厳しさや故郷に残す妻子への想いなど様々で、リズムもゆったりしたものから威勢がいいものまで変化に富み、民謡の中でも作業唄の代表として1つのジャンルを確立しています。

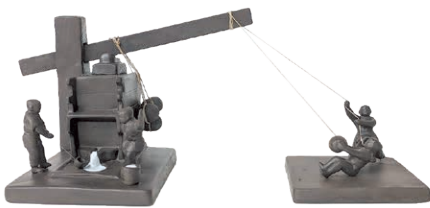


昭和初期の萬屋醸造店

菊詩会

家元工藤菊江師の高弟であった「故工藤菊詩師」が昭和63年日本民謡協会「湘南支部」として独立し、神奈川県を中心に民謡活動をしていた。平成10年に会主の工藤菊詩師没後、「二代目工藤菊詩」が会主となり、会名も「菊詩会」として今に至る。

現在の菊詩会は会主工藤菊詩(二代目)を中心として、(公財)日本民謡協会神奈川県第二連合会、(一社)神奈川県民謡協会等の所属団体として民謡諸大会に積極的に参加しながら、工藤流津軽三味線を後世に伝承すべく後継者育成等に鋭意努力をしている。



〈公共交通機関を利用される方へ〉
最寄り駅からの送迎を希望される方は、
事前にご相談ください。